

7/4 安全で安心な地域社会を



▲キャンペーン用品を配りながら啓発活動をする参加者

犯罪や非行をした人たちの再犯・再非行をなくし、「あやまち」からの立ち直りを支える地域をつくろうと、北播保護司会加西分区や更生保護女性会、警察、市などが、「社会を明るくする運動」を行いました。

参加した約120人はアスティアかさいで、犯罪や非行のない社会を築いていくことを呼びかけました。また、愛の光こども園の園児による太鼓演奏もありました。

7/26 市内企業からものづくりの技術を学ぶ



▲(株)マリアンヌ製靴で靴の製作過程を教わる参加者

加西商工会議所は、地元企業への関心を高めてもらうことや社会体験学習の一環として、7月26、28日に「夏休み産業・観光ツアー in かさい」を開催しました。

2日間で計42組90人の小学生と保護者が、(株)千石、(株)マリアンヌ製靴、ヨドプレ(株)、伊東電機(株)、市場(株)、是常精工(株)を見学。加西のものづくり企業などの技術を生かした製造工程を学びました。

7/30 牛の皮で太鼓作りに挑戦



▲親子で協力しながら太鼓を作る参加者

命について考える学習会として、牛の皮を使った「夏休み太鼓作り教室」が善防公民館で行われました。

小・中学生31人は、江戸時代から続く「太鼓屋六右衛門」18代目の太鼓師・杉本大士さん(39歳)の指導を受け、保護者にも手伝ってもらいながら太鼓を作りました。また、命の尊さや感謝の気持ちを伝えることの大切さを教わりました。

7/31 外国人の先生と楽しく英語で遊ぶ



▲先生の指導を受けながら、英語で自己紹介をする子どもたち

南部公民館(主催)で「イングリッシュ・サマー・カーニバル」が行われました。

参加した16人の子どもたちは、ALTの先生の指導のもと、英語で自己紹介やじゃんけんなどのゲームを通じて遊び、楽しみながら英語を学びました。最初は小さい声だった子どもたちも、英語に慣れてだんだんと大きな声で話せるようになりました。

8/2 核兵器や戦争のない平和な世界を



▲原爆ドームを訪れた生徒たち

市内の中学生 37 人が、「平和学習バスの旅」で被爆地の広島を訪れました。

生徒は、平和記念資料館や原爆ドームを見学。原爆の恐ろしさを肌で感じ、戦争の悲惨さと向き合いました。また、3歳の時に被爆し、母親と姉を亡くした飯田國彦さん（75歳）の体験談を聴き、平和の尊さを考えました。

8/8 加西のお米と野菜でタコライス作り



▲タコライスの具材を作る参加者

加西市農村女性組織連絡協議会が主催の「親子料理教室」が市民会館で行われ、親子 10 組 23 人が参加しました。

参加者は、同会会員から料理を通じて、食と農のつながり、地産地消の大切さを教わり、加西のヒノヒカリやトマト、はりま王にんにくなどを使って、タコライスともち粉のフルーツポンチを作りました。

8/12 基本を大切に日々練習を



▲レシーブの基本を教わる参加者

加西市制 50 周年記念事業として、プロクラブチーム「ヴィクトリーナ姫路」の選手らによるバレーボール教室と、同チームゼネラルマネジャーの真鍋政義さん（前全日本女子代表監督）による講演会を開催しました。

教室では、中高生のバレーボール部員約 100 人がプロの技を学び、講演会では約 300 人が、代表監督時代のエピソードなどを聞き入りました。

8/16 目指せプロ選手



▲ミニゲームを楽しむ子どもたち

「フットサルアカデミー 2017」が、7月5日から毎週水曜日に多目的グラウンドで行われています。

小学生から大人までの参加者 60 人が、バンディオンセ加古川の選手の指導を受けながら技を磨いています。

教室は、11月15日まで行っていますので、参加を希望される方は、文化・観光・スポーツ課（☎ 42-8773）までご連絡ください。